

本日、ここに「令和6年度デマンドサイドマネジメント表彰式」が行われるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センターをはじめ、本日御臨席の皆様方におかれましては、日頃より省エネルギー政策にご配慮・ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

まず、日頃から電力需要最適化や省エネルギーに資するシステムの開発・普及に大きな貢献をされている皆様に敬意を表しますとともに、本日、表彰を受けられる皆様方に対し、心よりお祝い申し上げます。

皆様が取り組まれているデマンドサイドマネジメントの重要性は、近年益々高まっています。再生可能エネルギーの出力制御は全国的に急激に広がっており、今後、太陽光発電等の変動再エネの更なる導入拡大が見込まれる中では、供給側の柔軟性確保や系統の連系強化のみならず、需要側の対応、つまりデマンド・リスポンス(DR)が不可欠です。

2022年に改正した省エネ法では、非化石エネルギーへの転換に加えて、電気の需要の最適化についての措置を新設しました。産業部門では、年間1,500kl以上のエネルギーを消費する工場等の大規模需要家に対して、2024年から電気需要最適化についての報告を求めることで、再エネ出力制御時の電力需要シフトや、電力の需給ひっ迫時の電力の需要減少に向けた取り組みを促進しています。

また、先日公表しました「省エネルギー・非化石エネルギー転換技術戦略 2024」においても、電気の需要最適化に資する技術について、新たに項目を追加して取り上げました。自家発電設備、生産設備、給湯器、空調機器等がDRに対応できるようにするための技術等についても開発と実装が重要であると考えています。この度の表彰を通じて、これらの機器やシステムの開発や普及が後押しされることは、大変有意義です。

最後に、今回受賞された皆様方、ご来場の皆様、そして一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センターの益々のご活躍とご発展を祈念するとともに、DRの取り組みが更に広がることを期待いたします。

令和6年6月3日

資源エネルギー庁 省エネルギー課長 木村 拓也